

教師の  
腕前診断文 | 城ヶ崎滋雄 (千葉県船橋市立夏見台小学校)  
イラスト | 吉田朋子

今回のテーマ

## 機会を作って教材研究を

私が勤務する地域は毎年のように新卒の先生が配属されます。今年度は3名の新卒の先生が同僚となりました。

新卒の先生は、教師の仕事は授業だけだと思いがちです。しかし実際は校務分掌の提案文書作り、教育委員会への提出文書作り、出席簿の管理などの事務仕事に追われ、なかなか教材研究の時間を作れないのが現実のようです。

今回は、日々忙しく過こして教材研究の時間がないという若い先生を想定した「腕前診断」です。ベテランの先生は昔を思い出しておつきあいください。

## 1 教材研究を「寝かせる」

新卒の先生は毎週、週案を書いていると思います。そこには、教科名・単元名とともにその時間のねらいを書きます。ですから、授業の大枠はわかっています。しかし、発問・指示などの具体的な場面は想起できません。

とはいっても、教師は、わかる・できる授業、良い授業をしたいと思っています。

## Q1 教材研究をするのは、何日前が適切でしょうか。

- ① 当日の朝
- ② 前日の放課後
- ③ 3日前の放課後

「①」はさすがにないと思います。当日の朝は、その日の授業の流れを確認する時間です。

どうしても当日の朝に教材研究をしなければならぬのであれば、指導書（赤本）に目を通したほうがよいでしょう。

ただ、このやり方では授業の腕は上がりません。それは、実際に困ったり、悩んだりしてないからです。教えるには原理原則があります。悩み、自分で解を見つけることでそれを獲得できます。

「②」は教師の鏡です。準備をする時間を確保しようとしているからです。

しかし、前日に目を通して、なかなか良い発問は思いつきません。それどころか、なまじっか考え始めてしまったがために、明日の授業のことで直前に悩むことになります。そして、満足な教材研究ができなかったことで自己嫌悪に陥ってしまいます。

おすすめは「③」です。教材研究を3日前に始めれば、3日間は教材について考えることとなります。本当は4日前でも1週間前でもいいのですが、校内研究の授業ならまだしも、現実的には無理です。少なくとも3日間熟すことで、良い発問を考えつくことができます。

例えば、算数で三角形の高さを教える時、三角形の外に高さがある問題をどう教えるかという問題があります。

子どもたちはこれまで三角形の中に高さがある問題を解いているので、外にそれがあるという発想ができません。そのため、三角形の辺と高さを混同します。

教師の頭の中は、「どうしたら高さが三角形の外にあることを教えられるか」ということでいっ

ぱいになります。テレビから「高さ」という声が聞こえると画面をふっと見てしまいます。書店に行った時、書名や目次に「高さ」を見つけると、つい手に取ってしまいます。

このように、3日前に教材研究を始めることで広く情報を集め、授業化の計画を立てることが出来ます。

さて、「高さ」の件ですが、何気なく見ていたテレビのバンジージャンプがヒントになりました。

バンジージャンプの醍醐味は、最も高い場所からの垂直落下です。飛び降りると、地面（水面）に対してまっすぐ落下していきます。

これを見てひらめきました。「バンジー」とはニュージーランド方言で「ゴム紐」のことです。落下する時、ゴム紐と地面は垂直の関係にあります。これは、三角形に例えると、ゴム紐が「高さ」で地面が「底辺」です。

早速、授業化しました。黒板に高さが外にあるような三角形を書きます。

まず、三角形の底辺を確認します。そこを地面、次に三角形を「大木」とみなします。

子どもたちに、「この木からバンジージャンプをするとしたら、どこからジャンプするとスリル満点かな」と聞くと、「一番高い所」と答えます。

先生は、こぶしをそこに持っていきます。実は、手の中には子どもたちに気づかれないように、ゴム紐をくくり付けた人形を隠し持っています。パッとこぶしを開くと、人形がヒューと落下していきます。一度最下点まで達した後に、空中で上下動を繰り返して、しばらくすると止まりま

教師の腕前が試される、学級経営のひと工夫。  
ベテラン先生によるケーススタディです。  
こんな時、あなたならどうしますか？

す。

子どもたちはゴム紐と地面が垂直の関係になっ  
ていることに気づきます。このことから、  
ゴム紐が三角形の高さになっていることを理解  
します。

3日間の教材研究期間が「高さ」について熟  
考させ、何気なく見ていることが教材化でき  
ると直感するようになります。

また、良いアイデアがなかなか思い浮かばな  
いまま授業に臨んでも、子どもたちの顔を見た  
途端、「そうか！」とひらめくことがあります。

そんな時は、「ちょっと待ってね」と子どもた  
ちに断りを入れ、教具作りを始めます。子ども  
たちは静かに待っています。「今日は何を作るの  
かな。何を見せてくれるのかな」と興味津々です。

3日間教材研究をすることで、アイデアが醸  
造されるのです。

## 2 声をかけてもらえる場所で教材研究をする

3日前から教材研究をすると、アイデアが思  
い浮かび、「寝かせて」さらに良いものに昇華さ  
れることがわかりました。

### Q2 どこで教材研究をすればいいで しょうか。

- ① 教室
- ② 自宅
- ③ 職員室

会議で教室を空ける時などを除き、担任は教  
室で1日を過ごすことが多いと思います。

子どもたちが下校した教室で教科書を開き、  
教材研究をするのですが、なかなか納得するシ  
ナリオや教具が思い浮かびません。

教室には教科書はありますが、資料は自宅だ  
と思います。それらを見れば、いくつかの考え  
が思い浮かびますが、教科書だけでは限界があ  
ります。

また、個人の力にも限りがあります。人と話  
をすることでアイデアが思い浮かびます。

①の教室は触発される環境にありません。  
では、資料が揃っている②の自宅が教材  
研究に適しているのかというと、そうではあり  
ません。

自宅は休む場所です。風呂に入り、食事をす  
ると1日の疲れがドツと出ます。それから教材  
研究をする気にはなれません。家族がいる人  
にとっては、団欒の時間、我が子とのふれあいの  
時間でもあります。家庭は仕事の場ではなく、



癒しの場であり、明日への充電の場なのです。

また、「よし、教材研究をするぞ」と意気込  
んで、カバンがパンパンになるくらい教科書を  
持ち帰っても、何もせずに翌朝を迎えることに  
なるので、虚しさだけが残ります。

そこで、若い先生には「③」をお勧めします。  
職員室で教科書を広げていると、先輩が「教  
材研究をしているの。良い授業ができそうだね」  
と声をかけてくれます。そして、教科書に目を  
やると、「算数の三角形の面積ね。高さが外に  
ある三角形が子どもにとって難しいんだよね」  
と授業のツボを指摘してくれます。「そんな  
ですよ。それをどうやって理解させたいの  
か悩んでいるんです」と悩みを聞いてもらえま  
す。

先輩は、「それはね……」と空いている隣の  
席に座って、一緒に教材研究をしてくれます。

授業の見通しがたったら、教室に戻って板書  
計画を立て、本番を想定して板書します。

その時に45分の時間配分を考えて、赤のチヨ  
ークで時刻を入れます。こうすると、授業の流  
れがわかり、休み時間まで授業が延びることは  
なくなります。

教師はひとりぼっちではありません。頼りに  
なる先輩がいつも見守り、支えてくれています。  
ひとりで悩まず、先輩に甘えていいのです。  
先輩も同じようにして教師の道を進んできた  
のです。学校はチームなのです。

先輩にお世話になったと思ったら、若手の皆  
さんは他のことで恩返しをすればいいのです。  
そして、やがて、自分がベテランになった時に、  
自分がしてもらったことを返せばいいのです。